



僕は昭和33年生まれ。少年時代に
見ていたテレビはプロ野球とプロレスばかりでした。プロレスは当時、屈強な外国人レスラーが続々とやってきて大変な盛り上がりを見せていました。ニックネームが面白い。アンドレ・ザ・ジャイアント、人間山脈、ステイプ・ウィリアムス、殺人医師、ディック・ザ・ブルーザー、生傷男。そして僕はこの人のニックネームがとても好きでした。

テキサスの荒馬(テキサスブロンコ)と呼ばれ日本のプロレスファンから絶大な人気を得て、あの『キン肉マン』の人気キャラ、テリーマンのモデルにもなったテリー・ファンクさんが、8月23日に死去されました。享年79。

死因は明らかにされていませんが、数年前に認知症と診断され、高齢者施設で暮らしていたそうです。プロレスラーの西村修氏によ

320

プロレスラー テリー・ファンク

平均寿命超え、生きたレジェンド



長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。公益財団法人日本尊厳死協会副理事長としてリビング・ウィルの啓発を行う。映画『痛くない死に方』をはじめ出版や配信などさまざまなメディアで長年の町医者経験を活かした医療情報を発信する傍ら、ときどき音楽ライブも。

僕は、コロナ前よりパーキンソン病を患い、体重も減少し車椅子生活を送っていたとのこと。

パーキンソン病は、脳内のドーパミンという神経伝達物質の減少により発症します。これにより脳からの命令がうまく身体に伝わらず、何もしていないときに手や足が震える(振戦)、膝や肩などがスムーズに動かない(筋強剛・固縮)、歩幅が狭くなり、前のめりに歩く(歩行障害)などの症状が見られます。

今のところ完治できる治療法はありませんが、リハビリや薬物療法で進行を遅らせることが可能です。しかし、鬱病の薬や抗精神病薬、吐き気止めなどの副作用で同様の症状を起こす「薬剤性パーキンソン症候群」の場合もありますから、薬の処方には十分な注意が必要です。このタイプの患者さんは薬を中止するだけでピタッと症状が治まることもあります。また、テリーさんもそうだったように、認知症とパーキンソン病の2つは密接な関係にあります。特に、レビー小体型認知症との合併率が高いです。

薬に頼りすぎることなく、規則正しい生活を心がける。日中は日の光を浴びて、転倒に気を付けながら毎日少しずつでも歩くこと。筋肉のこわばりを緩めるためストレッチも重要です。そして毎日明るく楽しく、意欲的に過ごしてもらうこともドーパミンを減らさないためにはとても大切です。

荒馬と呼ばれたテリーさんに運動障害が起きたことを想像すると悲しい気持ちになります。人は老いとともに動けなくなっていくもの。誰もが通る道なのです。

2021年の発表によれば、アメリカ人男性の平均寿命は73・2歳。日本人男性は81・47歳です。8年以上も差があります。リング上で何度も血まみれになって命懸けの闘いを続けた男が、平均寿命を超えて生きられた。この事実こそがレジェンドです。